

都道府県名	佐賀県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鹿島市立明倫小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	26
児童数	88	97	96	93	104	105	4	587	

研究の概要

1. 研究主題

ゆたかな生活を切り拓く学力の形成  
～みつめ・動き・高め合う明倫っ子をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数  
日々の学習の中核となる教科であり、学習内容の定着の程度に差が出やすく指導の充実に対する保護者のニーズも高い。また、本校においては、個別化個性化教育における研究実績がある。

(2) 年次ごとの計画

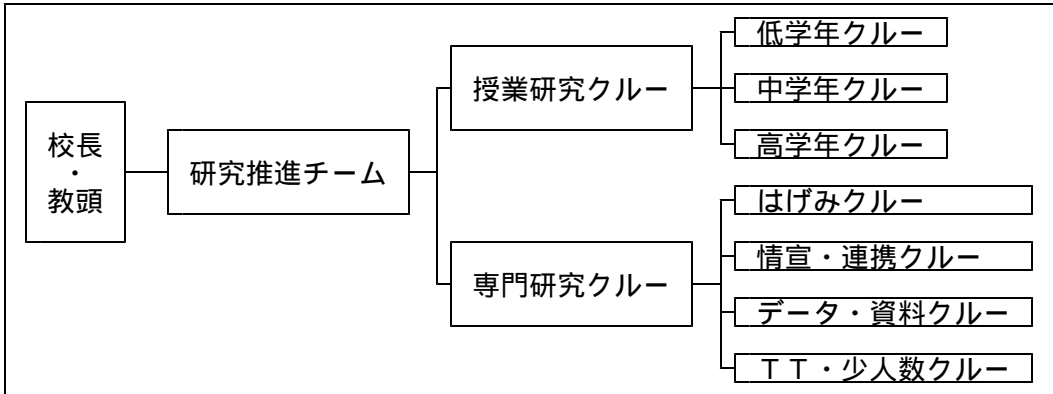
平成14年度	<p>テーマ よりよい授業づくりをさぐり、研究の方向性を明らかにする</p> <p>仮説 子どもの学力を向上させ、日々の授業づくりに生かせる授業を、多くの授業実践を通して様々な角度から模索していけば、本校におけるよりよい授業構想と研究の方向性が明らかになっていくであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法、指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の教員による指導体制の日常化</li> <li>・読み、書き、計算を中心とした「全校はげみ学習」</li> <li>・児童の興味・関心や習熟の程度に応じたTT、少人数指導</li> <li>・みつめ、動き、高め合う問題解決の学習過程の設定</li> </ul> </li> <li>・教材の工夫、開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活との結びつきが深く、学習欲求を引き出す教材づくり</li> <li>・個に応じるための発展的な学習や補足的な学習の教材づくり</li> </ul> </li> <li>・評価を生かした指導の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準の明確化と指導計画への位置づけ</li> <li>・教科内容と明倫っ子の学び方の評価規準の設定</li> <li>・自己評価の工夫</li> </ul> </li> </ul>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「みつめ・動き・高め合う」学力形成の具現化</p> <p>仮説 学力の向上を本校教育目標と連動した「みつめ・動き・高め合う」問題解決力の育成に焦点化し、各学年グループ別の系統化、重点化を通して、個に応じた実践を積み重ねていけば、具現化が図られるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法、指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科を中心とした学年協同の指導と個に応じた指導体制の充実</li> <li>・児童の興味・関心や習熟の程度に応じたTT、少人数指導</li> <li>・思考力、判断力、表現力の伸長を図るアタックタイムの設定</li> </ul> </li> <li>年間指導計画の工夫改善</li> <li>・教材の工夫、開発</li> </ul>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟、深化を図る補足的な学習と魅力的な発展的な学習の充実</li> <li>・個に応じることができる多様な教材づくり</li> <li>・評価を生かした指導の工夫改善</li> <li>・教科内容と明倫っ子の学び方を一体化した評価規準の作成</li> <li>・学習過程の評価と評価方法の工夫</li> <li>・子どもを見とり、子どもの声や感想を取り入れた学習指導</li> </ul>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 「みつめ・動き・高め合う」学力形成の充実</p> <p>仮説 具現化した「みつめ・動き・高め合う」問題解決力をさらに積み重ねていけば、確かな学力の向上が実現できるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法、指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程全体に対応した指導方法の確立</li> <li>・多様な学習指導に対応できるTT、少人数指導の確立</li> </ul> </li> <li>・発展的な学習や補足的な学習の教材の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発展的な学習と総合的な学習の関連を図った学習単元づくり</li> </ul> </li> <li>・評価を生かした指導の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導と評価の一体化を図るストラテジーの確立</li> </ul> </li> </ul>
--------	---

(3) 研究推進体制

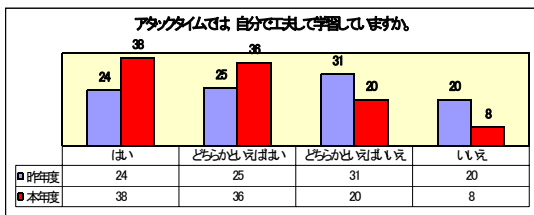
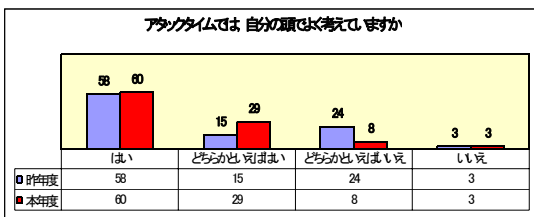
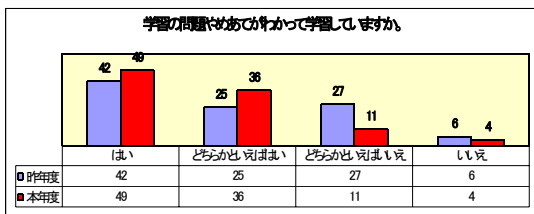
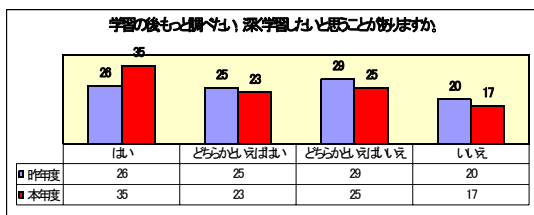
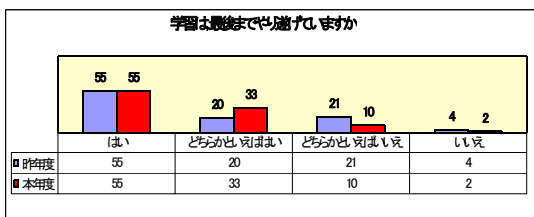
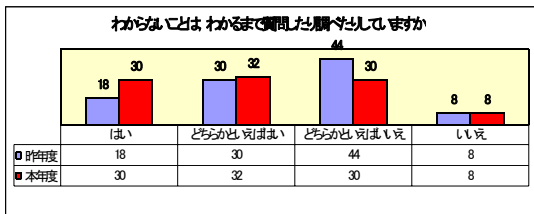


平成15年度の研究成果及び今後の課題  
1. 研究成果

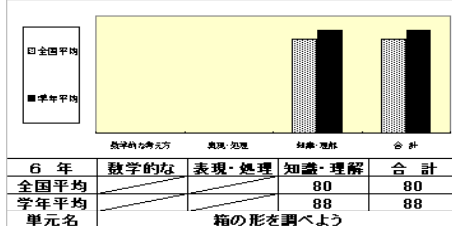
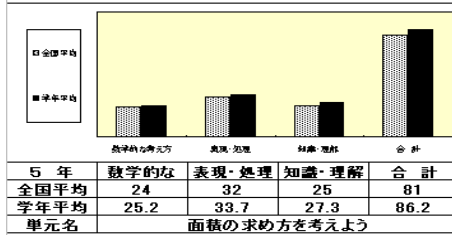
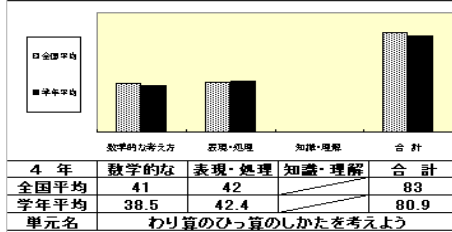
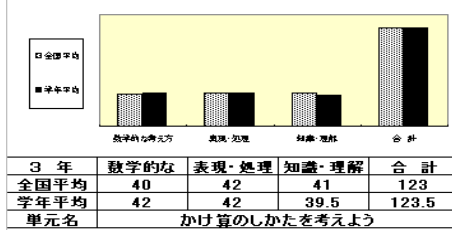
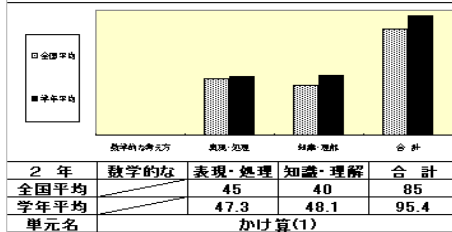
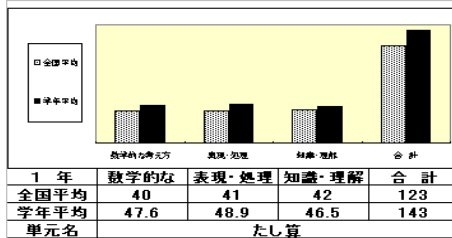
<p>子どもの側から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の結果の一部 図1 で昨年度と本年度を比較すると、学習に対する関心・意欲・態度や学習の仕方や自ら学び自ら考えるといった内容において若干ではあるが向上していることがわかる。</li> <li>・どの学年も問題解決の中核となるアタックタイムの取組が充実してきており子どもと算数とのかかわりが以前に増して強くなってきた。真剣に落ち着いて考え、自力解決をしたり、集団解決をしたりすることで、学習の仕方が定着してきている。</li> <li>・複数の指導者による個を大切にしたいきめ細かい指導や算数的な活動を繰り返して取り入れてきた結果、算数が好きになる子どもが増え、わかる喜びやできる喜び、算数の不思議さやよさを感じる子どもが少しずつ増えてきている。</li> <li>・市販のテストの結果の一部 図2 をみると、学年や観点により違いは見られるものの、全体的に全国平均より学年平均が上回っているところが多い。市販のテストだけで簡単に比較できるものではないが、少なくとも学年での算数の取組や、子どもの問題解決学習の結果として表れてきているものであろう。今回は分析結果がまだ届いていないので検討することができなかったが、昨年度と本年度の学力テスト(CRT)の結果を比較してみると、成果と課題が一層明確になると考えている。</li> </ul> <p>教師の側から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人の教師による実践から、学年又は学年グループによる協同の取組や指導体制により、日々の教材研究と授業をもっと大切にしようとする意識が強ま</li> </ul>
--

り、共に知恵を出し合い高め合う実践力が高まってきた。また、一人一人の子ども学習状況を以前に増して積極的に見とり、指導に生かそうとする意識が高まってきた。

- 子ども一人一人に学力をつけようとする情熱と学力をつけていくための教師の力量の大事さを再認識することができた。これからも、本校の子どもに真の学力向上をといった「志」をもって、教師集団が一丸となり取り組んでいきたい。



《図1》学習に対する子どもの意識の変容 (一部抜粋)  
数値は全て全校の平均を%で表示



《図2》市販テストによる全国平均との比較

## 2. 今後の課題

- ・子どもが学習の主体となり自ら学び自ら考える問題解決力をさらに向上させるための手立ての確立  
(思考力・判断力・表現力を向上させるための手立ての確立)
- ・生活力を含めた幅広い学力の調和的な育成
- ・学習と生活との結びつきをさらに強め、子どもの学習欲求と学習価値をより高める教材の開発
- ・学習グループの効果的な編成のあり方とモデルの確立
- ・個に応じたきめ細かい指導力の向上
- ・より積極的に明確な情報公開と保護者との連携の強化

### 学力等把握のための学校としての取組

#### 目的

- ・観点別に到達度や状況を把握し、教育課程の作成・改善及び学習指導方法の研究の資料とする。
- ・未到達の内容や好ましくない状況について適切な補充指導を行うための資料とする。

#### 実施内容

- 新観点別到達度学力検査(CRT)国語と算数の2教科・2月末
- 学習に対する意識調査・1学期中旬と3学期中旬の年2回
- (関心・意欲・態度、興味・関心)
- (TT・少人数指導の学習形態)
- (みつめ・動き・高め合う問題解決力)
- (学習へのよい子の心がまえ)
- (家庭学習)
- (読書タイム・はげみ学習)
- (自由記述)

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

#### 公開授業研究会(本年度・3回実施)

第1回(6/27)

- ・2年(長さの単位 ~ものさしはかせになるう~)
- ・4年(わり算 ~わり算のしかたを考えよう~)
- ・6年(くらべ方を考えよう ~私を旅行につれてって~)

第2回(10/17)

- ・1年(たしざん ~たしざんゲームランドであそぼう~)
- ・3年(かけ算のひっ算 ~かけ算のしかたを考えよう~)
- ・5年(面積の求め方を考えよう ~国盗りゲームをしよう~)

第3回(12/10)

- ・6年(箱の形を調べよう ~オリジナルボックスをつくるう~)
- ・公開授業研究会では、低中高に分かれての授業提案、授業研究分科会、講演等を行った。
- ・教材やワークシート等の他校への貸し出しも行い、実践後の手紙や感想もいただいた。

#### 佐賀県学力向上フロンティア研修会での実践発表

(8/22)佐賀市文化会館中ホール

#### 鹿島市学力向上推進委員会での実践発表

(7/7)鹿島市庁舎

#### 九州個別化個性化教育研修会での実践発表

(1/24)長崎県壱岐郡石田町農村センター



- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       TTによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無